

研究実施計画書

岡崎市民病院院長殿

申請者

所属 リハビリテーション室

職名 正理学療法士

氏名 原田 亮

1.研究課題

集約型リハビリテーションから病棟配置リハビリテーションへの移行の有用性
～大腿骨近位部骨折の地域連携パス適応患者の動向～

2.研究者名・所属

原田 亮¹⁾ 服部 文明¹⁾ 眞河一裕¹⁾ 櫻井 信彦²⁾

1) リハビリテーション室 2)医局 整形外科

3.背景

当院では平成 28 年度より整形外科病棟で病棟配置リハビリを開始し、医療の質の向上に努めている。従来のリハビリでは、看護師がリハビリ室への送迎に労力と時間の要し、患者を集約して機能訓練を中心としたリハビリを提供してきた。病棟と隔離された場所でリハビリを行うため、「できる ADL」と「している ADL」に乖離が生じてきた。そこで、今回、病棟配置リハビリの導入により患者の病棟生活を医師・看護師に可視化し、リハビリを提供してきた。

4.研究目的

病棟配置リハビリの有用性の検討し、今後の業務改善、および学会発表すること。

5.対象

大腿骨近位部骨折の地域連携パスの情報を使用した。平成 26 年度の 140 名 (81.2±9.3 歳) を集約群、平成 28 年度の 120 名 (81.7±9.7 歳) を病棟配置群とし調査した。

6.方法

調査項目は患者 ADL の評価項目である Functional Independence Measure : FIM の各項目の点数、および運動項目の合計点数、在院日数とした。集約群、病棟配置群の両群間で比較検討を行った。統計解析には Mann-Whitney の U 検定を用いた。

7.研究期間

西暦 2014 年 4 月 1 日～西暦 2015 年 3 月 31 日

西暦 2016 年 4 月 1 日～西暦 2017 年 3 月 31 日

この研究は、患者の既存情報のみを用いて実施する研究であるため、研究対象者から文書または口頭による同意は得ておりません。この研究内容に関して、同意が得られない場合は御連絡をお願いいたします。その場合は、その方の情報は研究に使用いたしません。

お問い合わせ先：〒444-8553 岡崎市高隆寺町五所合 3-1

岡崎市民病院 リハビリテーション室 原田 亮

Tel : 0564-21-8111 FAX 0564-25-2913